

**5年後の熊谷市を考えるワークショップ°
実施報告書**

ワークショップ実施概要

開催の目的・実施方法

- 人口減少に伴う社会課題やライフスタイルの多様化など、住民ニーズは日々変化しています。健康、子育て、移動・交通などの多方面から「暮らしと幸福感」を考え、熊谷市での暮らしがよりウェルビーイングなものとなり、住み続けたいまちを目指したアイデアの創出を目的としてワークショップを実施しました。
- ワークショップは、A、Bと2グループに分かれ、全4回実施しました。ワークショップでは、付せんやワークシートを用いながらアイデアを考え、参加者同士で共有しました。
- 最後に各グループの代表から全員に向けてアイデアを発表していただきました。

各回の日程

		Aグループ	Bグループ
日程	第1回	令和5年10月18日（水）	令和5年10月21日（土）
	第2回	令和5年10月30日（月）	令和5年11月11日（土）
開催時間	各回とも13:00～15:30（2.5時間）		
開催場所	熊谷市立商工会館		熊谷市本庁舎
対象者	各回とも高校生～40歳代の市内在住、事業者の方		
参加者数	6名		9名

【ウェルビーイングとは】

ウェルビーイングとは、「身体的・精神的・社会的に良好な状態にあること」を言い、1946年、世界保健機関（WHO）設立の際に考案された憲章の中で初めて言及されたものです。現在、国では、地域の「暮らしや社会」、「教育や研究開発」、「産業や経済」をデジタル基盤の力により変革し、「大都市の利便性」と「地域の豊かさ」を融合した「デジタル田園都市国家」を構想しています。「デジタル田園都市国家構想」では、「心ゆたかな暮らし」(Well-being) と「持続可能な環境・社会・経済」(Sustainability) を実現し、地域で暮らす人々の心ゆたかな暮らし（Well-being）の向上と、持続可能性の確保を目指しています。

ワークショップ°プログラム概要

第1回 幸福をスケッチしよう

概要説明	Work1	Work2	Work3	全体共有
<ul style="list-style-type: none">・熊谷市の施策・幸福度調査結果	心ゆたかな暮らしのシナリオへの想いを共有する	心ゆたかな暮らしのシナリオから実現したい分野を選ぶ	5年後を想像した理想のまちの姿を言葉にする	各チームで話し合った結果を参加者に共有

第2回 未来の暮らしのアイデアを考えよう

振り返り	Work1	Work2	Work3	全体共有
A・Bグループの各チームでまとめた内容を振り返る	熊谷市の魅力・課題について考える	ウェルビーイングの高いまちに向けたアイデアを個人で考える	ウェルビーイングの高いまちに向けたアイデアをチームでブラッシュアップする	各チームで話し合った結果を参加者に共有

第1回 ワークショップにおける市民意見・アイデア

第1回 幸福をスケッチしよう

- 第1回のワークショップでは、まず市の現状や取組、また2023年8月実施の幸福度調査アンケート結果のインプットを簡単に行い、ワークショップの進め方について説明しました。
- Work1では、幸福度調査アンケート及びまちづくり市民アンケートの重要度を基に抽出した8つの分野の「心ゆたかな暮らしのシナリオ」に対して、参加者同士で話し合いをしました。
- Work2では、Work1の「心ゆたかな暮らしのシナリオ」の8分野から参加者が実現したい分野を3つ選び、Work3で5年後の市の将来について話し合いました。

Work1

- テーマ
心ゆたかな暮らしのシナリオへの想いを共有する
- 話し合いの分類・傾向
現状維持の未来、デジタルによる未来のシナリオに対して、226件の意見をいただきました。そのうち「事業創造分野」が50件と最も多く、次に「移動・交通分野」が37件ありました。

「事業創造分野」では、スポーツ関連の企業誘致や既にある古民家リノベーションや農業を活かした新たな事業の創出によって、地域の活性化を望む声が多くありました。

Work2

- テーマ
心ゆたかな暮らしのシナリオから実現したい分野を選ぶ
- 話し合いの分類・傾向
参加者が実現したい分野として、Aグループでは、「子育て分野」が5件、「初等・中等教育分野」5件。Bグループでは、「事業創造分野」が6件、「移動・交通分野」が5件になりました。

A,Bグループを合わせると「事業創造分野」が9件「移動・交通分野」が7件になりました。

Work3

- テーマ
5年後を想像した理想のまちの姿を言葉にする
- 話し合いの分類・傾向
Aグループでは、地域コミュニティを通じて市民同士で子育てができるまち、また熊谷市で誇るべき伝統、文化、産業を活用したまちにしたいといった意見がありました。

Bグループでは、交通インフラの充実に加え、強みである「農業」を活かしたコミュニティファームを形成し、心身の健康を増進できるまちにしたい。また、オープンノベーションを創出し易いまちを目指したいといった意見もありました。

第1回 ワークショップの様子

心豊かな暮らしのシナリオについて話し合っている様子



理想のまちの姿を考え、共有している様子



第2回 ワークショップにおける市民意見・アイデア

第2回 未来の暮らしのアイデアを考えよう

- 第2回のワークショップでは、まず話し合いの進め方について説明した後、チームメンバーを入れ替え第1回のワークショップの振り返りをし、話し合った内容について理解を深めました。
- Work1では、熊谷市の地図を見ながら、熊谷市の魅力や課題について話し合いました。
- Work2では、Work1で再確認した「魅力」、「課題」をもとに個人で「ウェルビーイングの高いまちに向けたアイデア」を考えチームメンバーに共有し、新たなアイデアや共感する点について話し合いました。
- Work3では、個人のアイデアから実現したいアイデアを選び、チームで「ウェルビーイングの高いまちに向けたアイデア」へと磨き上げました。

Work1

- テーマ
熊谷市の魅力・課題について考える
- 話し合いの分類・傾向
「事業創造分野」、「移動・交通分野」に意見が集中しました。
「移動・交通分野」では、熊谷駅は3路線の乗り入れもあり、アクセスのしやすさが魅力である一方で、バス路線の縮小・本数の減少に伴い、市内の移動が不便であるといった課題がありました。
「事業創造分野」では、うちわ祭をはじめとした行事や豊かな食文化の魅力がある一方で、駅前が寂しく、活力のある産業がないことが課題といった意見もありました。

Work2

- テーマ
ウェルビーイングの高いまちに向けたアイデアを考える
- 話し合いの分類・傾向
参加者個人で考えたアイデア40件のうち、半分の20件はデジタル技術を活用するアイデアが創出されました。
第1回、第2回と毛色が異なるのは、「地域とのつながり分野」が最もアイデアが多く、他世代や地域との交流により、地域の活性化につなげたいといった声が多くありました。
「移動・交通分野」では、乗り合いタクシーなどの新たな2次交通、「事業創造分野」では、市内の企業と起業家とのマッチングのアイデアがありました。

Work3

- テーマ
ウェルビーイングの高いまちに向けたアイデアを考える
- 話し合いの分類・傾向
A・Bグループの各チームで取りまとめた結果、「子育て分野」、「初等・中等教育分野」、「移動・交通分野」、「事業創造分野」、「地域とのつながり分野」と5分野のアイデアがありました。
熊谷市への愛着・誇りを育むために、小学生から地域の文化や学習を体験すること。またコミュニティを形成するために、既存施設を最大限に活かして市民・市外の方が気兼ねなく集まれる場づくりといった意見がありました。

ワークショップでの結果を受けて

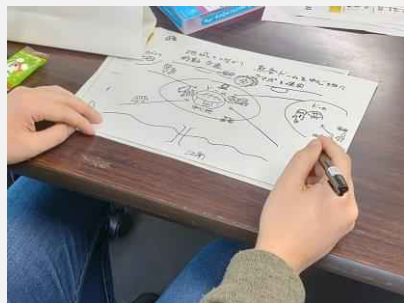
ワークショップ参加者から出た、住み続けたいまちを目指したアイデアを関係部署の職員と共有し、デジタル技術の活用も見据えながら、市民のウェルビーイング向上を目指した施策の検討に繋がっていきます。

第2回 ワークショップの様子

市の魅力・課題を考える様子



ウェルビーイングの高いまちに向けたアイデアを考える様子



全体発表している様子

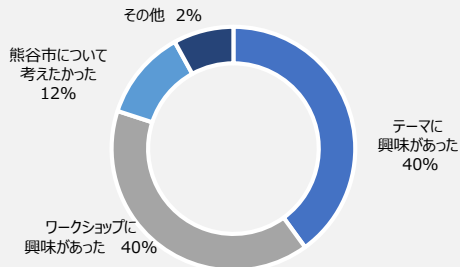


第1回 参加者アンケート

参加者の属性

職業	参加者数
会社員	6
公務員	1
自営業	5
学生	2

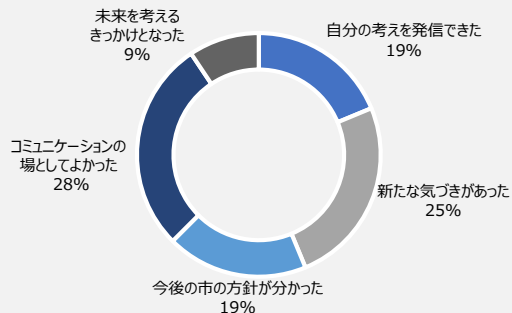
参加しようと思った理由を教えてください (複数回答可)



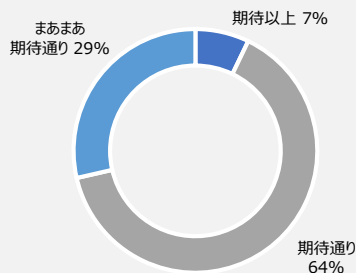
自由記述欄に寄せられた主な感想・ご意見

- 熊谷市について
 - 改めて熊谷市の方針情報を知る時間が取れてよかった
 - 農業は熊谷市の強みだと理解できた。活用できそうな既存資産がたくさんある
 - 学力日本一を目指していること、またデジタル化をすすめていることを知った
 - 熊谷市がこの先魅力あるまちになるように、新たな熊谷市の魅力を発信できるような場をたくさん設けていくことが重要だと思う
 - このような機会を増やしてもらうことで、更に市民と市政が歩みよれることに繋がると思う
 - 熊谷駅前のにぎわいについて、もっと危機感を抱いてほしい
- ワークショップの感想
 - 普段交流する機会のない方と、コミュニケーションがとれてよかった
 - 多様なバックグラウンドを持つ方々からの意見が参考になった
 - 市民同士話し合うことの大切さを実感しました
 - 初めてワークショップに参加したため、不安なことがあったけど、皆さん話をよく聞いてくださって、とても楽しい時間を過ごさせた
 - 事前に準備いただいたシナリオがあったため、考えやすかった
 - 考える時間が物足りなかった

ワークショップ内容はお役に立ちましたか？ (複数回答可)



ワークショップに参加していかがでしたか？

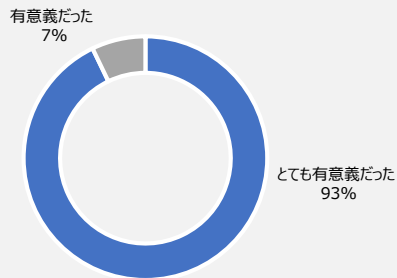


第2回 参加者アンケート

参加者の属性

職業	参加者数
会社員	5
公務員	2
自営業	5
学生	1

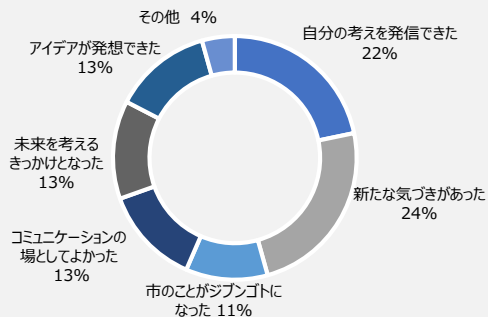
2日間のワークショップは有意義でしたか？



自由記述欄に寄せられた主な感想・ご意見

- ワークショップの感想
 - 「ウェルビーイング」、最近、気になっていたワードでした。これからのことを考え、自分の考えを言えるいい機会でした
 - 熊谷市民同士で自分の街について考えられるような場があることはとてもよいことだと思う
 - 移住者や定住者の生の声が聞くことができ、非常によかった
 - ワークショップの内容はもちろん、グループメンバーが前向きで、ワークショップがやりやすい環境だった
 - 熊谷市のことをチームの人と検討することによって、多くの発見があってよかった
- 市への要望
 - 市の状況などをもっと発信してほしい
 - 市長をはじめ、市のキーマンや市議会議員にも参加していただき、若年層の意見を聞く場を設けてほしい
 - ママ友など世代を絞って、気楽に参加・発信できるようなワークショップを開催してほしい

ワークショップ内容はお役に立てましたか？ (複数回答可)



今後、市が開催するワークショップがあれば参加したいですか？

